

第15号

法人
機関
紙

あゆみ

制度は変わる。
サービスは変える。

編集発行：平成23年11月15日
仙台市社会事業協会 広報委員会



特集～絆、夢、未来

変わらないのは、あなたを想う心。

事業所案内

養護老人ホーム 仙台長生園	定員 150名	特別養護老人ホーム仙台楽生園	
生活管理指導短期宿泊事業	定員 4名	長期定員 90名	短期定員 20名
長生園介護センター		葉山地域交流プラザ	
葉山デイサービスセンター	定員 25名	楽園デイサービスセンターいこい	定員 10名
沖野老人福祉センター	利用者数 1日約 110名	楽園デイサービスセンターなごみ	定員 12名
沖野デイサービスセンター	定員 25名	ケアハウス創快館	定員 10名
沖野居宅介護支援センター		グループホーム楽庵	定員 9名
仙台保育園	定員 60名	葉山地域包括支援センター	
柏木保育園	定員 90名	葉山ケアプランセンター	
富沢わかば保育園	定員 60名	葉山ヘルパーセンター	
母子生活支援施設仙台つばさ荘	定員 20世帯	葉山訪問看護センター	
母子生活支援施設仙台むつみ荘	定員 20世帯	柏木フレンドリー駐車場	利用台数 84台
仙台理容美容専門学校 理容科 40名 美容科 200名		お問合せは・・・法人事務局	TEL 275-2792

<http://www.fukushi-sendai.or.jp>

採算制について



常務理事 高倉 理一郎

福祉法人の運営の中に採算制の概念が積極的に導入されるようになってからすでに久しい。しかしながらそれがどの様に定着して来ているのかは未だ不安定な状況にある。

本来福祉には採算制の概念は含まれないとする旧来の主張も故なき事ではない。

それは、採算制を基本とする事業が、他の如何なる要素をも制圧し最終的に利益(利潤)を求めんとする本性に由来するものである。

しかし福祉は全く別の要素を追求し、その実現を目標とし、これ等採算を求める制度とは根本的には相容れない。

現行社会に於いて施設経営となす場合に、経営の再生産をなすべき採算制の概念を離れては成立しない。

この相矛盾する命題は、それを直接に結びつける解を持たない。

ここに登場するのが第三の道である。

税の投入、善意による寄贈、その他の補助等が考えられるが、その額は何を標準に算定されるであろうか、現在は事業体の安定的な運営をその基準としている。しかしそれはどちらかと謂えば採算に重点を置いた見方であり決して福祉との融合を目ざした「解」とはなっていない。

しからばこの接点は如何なる処に求められるであろうか。現在問題になっている社会会計の中で解決して行かなければならない問題であると考え。

それは、社会体制の下に投ぜられた価値の社会的要素の充足度によって測定されるものである。社会的に投ぜられた価値がその社会的要素の水準と合致した時に、社会会計の採算が達成されたと考えられる。

これらの抽象的概念は、将来社会会計的に具体化され、現実的数量となって表れるであろう。コンピューター等の駆使による、あらゆる係数の比較・分類・分析は将来この社会会計の数値のより具体的姿をとらえるであろう。

投ぜられた価値の額が、社会会計的満足度を越えた時はじめて、採算がとれたと判断されるのである。即ち社会会計的満足度が具体的に表現されて、はじめて真の意味の採算制が実現されると謂えよう。それまでの我々は社会会計的ニーズの具体的な姿をとらえる様に努力しなければならないと考える。



仙台理容美容専門学校

『絆』

多くの命と幸せを奪った【3.11 東日本大震災】。
しかし同時に、多くの『絆』を実感したのもこの震災でした。

震災後間もなく、理美容業界の方々、卒業生、中学生や高校生から寄せられた、
お見舞いや教材のご寄付、
心温まる応援メッセージなどの物的・心的支援の数々…。

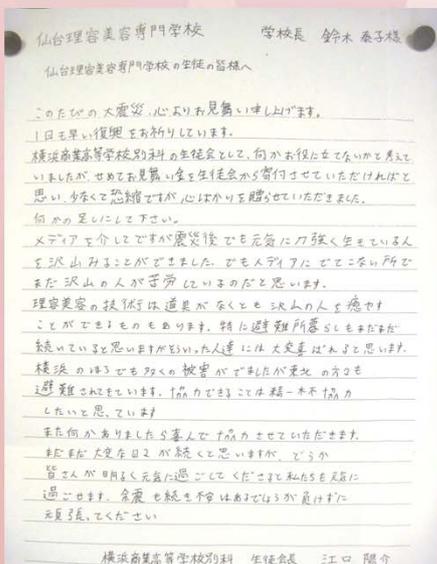
本当にありがとうございました！

私たちは、人とのつながりを大切にする素晴らしい理・美容師を育てることで、
きっと、きっと恩返しします！

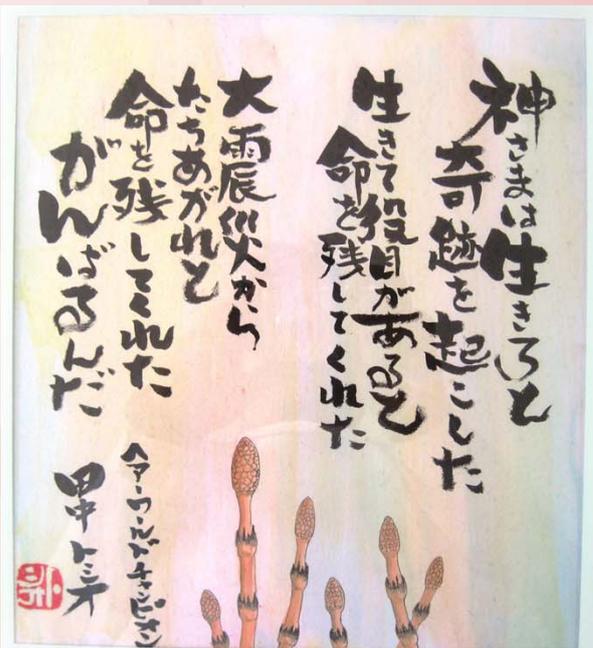


卒業生の勤務する美容室スタッフの皆さんからの
応援メッセージ

寒河江市立陵西中学校の皆さんからの
応援メッセージ



横浜商業高校 別科（理容科）生徒会からは
義捐金が届きました



本校後援会会員・世界理美容選手権チャンピオンの
田中トシオ先生も東京から駆けつけて下さいました

仙台長生園

3.11 大きな揺れが始まり、ついに予知されていた宮城県沖地震が来たかと思いきや、繰り返される揺れはおさまらずに強くなる一方。これは何事かと頭の中はパニック状態・・・。利用者・職員に怪我はなく建物にも大きな損傷もない事を確認。断続して来る余震の中、停電でエレベーターが止まり暗くなった園内で利用者は各階のホールに集まり、布団をこの場に敷いて寝起きする生活が始まった。食事は職員が階段で各階に、トイレの水は風呂場から汲み運搬。ガスが止まった調理では薪で食事作り。夜になると近隣の方や一人暮らし等の高齢者が余震の不安や自宅の被災から避難に来られ(一般の方 64 名・要援護避難者 14 名)食事の提供も開始。地震直後の長生園はこの様な状況でした。

支援物資が届くまでの 1 週間までに、以前ボランティアに来たことがあると言う学生さんが、「少しだけ使ってください」とお米を持ってきて下さったり、又避難者の方が職員の手伝いを自分から申し出て下さる等の大変嬉しいこともありました。震災後に「絆」という人との結びつきの言葉を良く聞く様になりましたが、ひとり一人の極細く小さな思いの糸が編まれて太い糸になり、それが更に縦横編まれて布になるように、小さな思いが前に進んで行く意味もあるのかと今回の経験から思います。それは非常時に限った言葉ではなく・・・。

半年が過ぎた 9 月 1 日に平尾昌晃さんと金沢明子さんが



1 階食堂の布団を敷くスペース



地域交流センターは要援護者避難所に



薪で火を焚き食事づくり

被災地応援コンサートを園の集会室で開いて下さり入所者、近所の方も大勢集まって楽しい一時を過ごしました。又 9 月 17 日には長寿をお祝いする会を開き最高齢 98 歳の方を始め皆さんの長寿をお祝いしました。いつまでもお元気で穏やかな日々を過ごして頂く事が職員一同、長生園利用者皆さんへの思いです。



届けられた支援物資の一部



握手に応える平尾昌明さん



これからもお元気で

3.11から半年間の記録

仙台楽生園ユニットケア施設群

東日本大震災で結んだ **絆**

平成23年3月11日、マグニチュード9.0の大地震で、宮城県北部では震度7を記録しました。さらには想像を絶する大津波の来襲で、犠牲者が2万人を越える大惨事になりました。

仙台楽生園ユニットケア施設群においても被害を受けましたが、たくさんの皆様にご支援をいただき、様々な苦難を乗り越えてきました。この震災を通して、人と人の絆の大切さ、ありがたみを改めて痛感しました。

仙台楽生園ユニットケア施設群の被害状況

- ◆ **人的被害** 利用者 無し 職員 無し 職員の家族等の死亡又は行方不明 6名
- ◆ **建物被害** 壁の亀裂、ドアの歪み、エアコンの室外機倒壊、ケアハウス室内の給湯器倒壊等、一部損壊(修繕見積り額1800万円)
- ◆ **ライフライン** 電気 3日間 水道 4日間(職員は居住地により1週間以上) 都市ガス 35日間(厨房 薪対応24日間 プロパンガス対応 11日間 風呂 2週間以上入れず、途中から重油対応の旧施設で週1回入浴)
- ◆ **その他** 食料やガソリンの調達は3月一杯困窮するが、食材に関しては委託業者が調達 交通網の遮断 職員の通勤に支障、徒歩や自転車で対応 泊り込みや家族連れ勤務

7階屋上のエアコン室外機が倒壊
落下寸前の状態で危機一髪でした



仙台楽生園ユニットケア施設群の避難者受け入れ

- ◆ 地域住民避難者 185人 3/11~3/17 7日間
- ◆ 福祉避難所 139人 3/16~5/8 52日間 若林区
- ◆ 定員外受入 575人 4/4~9/11現在 161日間 青葉区、南三陸町
- 合計 899人 3/11~9/11現在 185日間
うち南三陸町からの被災者受け入れ
延人数 490人 実人数5人(男2名、女性3名)

仙台楽生園ユニットケア施設群へのボランティア

- ◆ 法人内ボランティア
三保育園 15人 3/17~3/23 7日間 保育
沖野デイサービス 26人 3/17~3/31 13日間 介護
- ◆ 個人ボランティア 28人(実人数7人) 見守り、薪割り、マッサージ、厨房・喫茶 等
- ◆ 民間団体 CLC 17人 3/20~3/27 7日間
サンダーバード 50人 3/24~4/13 19日間
4団体(鳥取、広島、山口、広島)
- ◆ 日本福祉大学提携法人 64人 4/17~5/8 22日間
3団体(静岡、岡山、兵庫)
- ◆ 名古屋市老施協チーム 42人 4/14~4/28 15日間
2団体(名古屋市)
- ◆ 北海道老施協チーム 08人 4/31~8/8 101日間
23団体(北海道)
- 合計 650人 3/17~8/8 145日間 37団体

仙台楽生園は仙台市の福祉避難所の指定を受けていた他、近隣の町内会と防災協定を交わしていたので、震災当夜は107人の地域住民が楽生園内に避難し、不安な夜を共に過ごしながら励まし合いました。

震災後、間もなく法人内の事業所・民間団体・他県の老人福祉施設の仲間の皆さんから、ボランティアとして暖かい支援の手が差し伸べられました。

「法人内の連携に感謝!!」

「全国の仲間に感謝!!」です。

宮城県の災害支援の基地となる!!

全国の災害支援のコーディネーターとして「人・物・金・情報のマッチング」

震災直後、佐々木総括施設長が宮城県老人福祉施設協議会の災害対策本部長に就任。その他、全国社会福祉施設経営者協議会、全国グループホーム協会、全国認知症介護指導者ネットワーク等々の各団体の現地災害対策本部長・災害支援のコーディネーターとして、介護ボランティアや災害ボランティアの派遣調整をはじめとし、支援物資・義援金・各種情報を全国各地から被災地の施設へと結びつける災害支援及び復興支援の仕事を続けております。



愛知県老人福祉施設協議会の皆さんと前列左から、西澤宮城県老協会長・太田愛知県老協会長・佐々木総括施設長・高橋仙台市老協会長。宮城・仙台老協に義援金をいただきました。この後皆さんは南三陸町に災害ボランティアへ。

認知症ネットワークと経営協関係の介護ボランティア派遣

- ◆全国認知症介護指導者ネットワーク連携チーム
気仙沼市GH村伝、石巻市GHあゆかわの郷、石巻市(特養)せんだんの杜ものう
(大阪、北海道、鳥取、愛媛、熊本、静岡、宮城)
合計 7団体・個人 175人 受入施設 3施設
マッチング回数 8回
- ◆社会福祉施設経営者協議会関係の支援チーム
鹿児島県経営協チーム
南三陸町社会福祉協議会 デイサービスうたつ
合計 6団体 134人 受入施設 1施設
マッチング回数 6回

老人福祉施設協議会関係の介護ボランティア派遣

- ◆名古屋市・愛知県老協チーム 11法人 347人
受入施設 7施設 マッチング回数 18回
気仙沼市(鹿折中避難所)ケアハウスみなみ、石巻市(特養)やもと赤井の里、丸森町(特養)仙南ジェロントピア、山元町(特養)みやま荘、名取市(養護)松寿園、青葉区(特養)仙台楽生園、宮城野区(特養)パルシア
- ◆北海道老協チーム 29法人 648人
受入施設 3施設 マッチング回数 36回
仙台楽生園、パルシア、松寿園
- 合計 40法人 995人 受入施設 7施設
マッチング回数 54回

グループホーム関係の介護ボランティア派遣

- 石巻市GHあゆかわの郷への派遣
- ◆新潟県GH協会チーム 2団体 50人
- ◆石川県GH協会チーム 2団体 56人
- ◆静岡県GH連携チーム 2団体 99人
- ◆岩手県・神奈川県GHチーム 2団体 6人
- ◆宮城県GH連携チーム 9団体 246人
- ◆日本福祉大学提携法人 1団体 110人(名古屋市)
- 合計 18団体 567人 受入施設 1施設
マッチング回数 20回

全国社会福祉施設経営者協議会の復興支援

- ◆ 6/3 仙台市に東日本大震災復興対策委員会・現地復興対策本部設置
- ◆ 6/14~7/29 復興支援調査 調査員 12名 訪問調査及び支援物資の提供
- ◆ 社会福祉法人 42 地区社協 23 市町村 21 その他 1 計87ヶ所
- ◆ 7/22 宮城県北経営相談会・支援物資配給の実施(女川町・特養おながわ)16法人参加
- ◆ 8/10 復興支援調査の分析会議 国・県・市町村等への提言案作成
- ◆ 9/7 宮城県長寿社会政策課へ復興支援調査票・調査分析結果・復興要望書の提出
- ◆ 9/1~9/15 復興支援フォローアップ調査 調査員 4名
- ◆ 訪問調査 社会福祉法人 36ヶ所 災害復旧費交付要綱及び支援物資等の配布
- ◆ 電話調査 地区社協 11ヶ所 市町村 13ヶ所 計60ヶ所

日本福祉大学提携法人・その他 民間団体の介護ボランティア派遣

仙台楽生園への派遣(再掲)

- ◆東北関東大震災・共同支援ネットワーク 17人
- ◆サンダーバード 4団体 50人
- ◆日本福祉大学提携法人 3団体 64人
- 合計 8団体 131人 受入施設 1施設
マッチング回数 8回

総計 79団体 延人数 2,002人
受入施設 11施設 マッチング回数 96回

オール・ジャパンの支援

これまでも、医療・福祉関係者は、使命感に燃えながら無我夢中でケアや被災者支援等に邁進してきましたが、被災者でもある職員自身が疲弊してきているのも現状です。この未曾有の大災害の復旧、復興には、相当数の時間がかかることが予想され、中長期的な視点でのバックアップが必要です。様々な関係機関・福祉団体が一致協力して、オール・ジャパンで支援することが何より大切と考えております。

支援物資の提供元

日本 GH 協・全国老協協・GLC
全国経営協・ワンファミリー仙台
認知症ケア学会・ミライロ
長崎県認知症指導者有志
朝日福祉会(北海道)他

支援物資の内容

食料・水・衣類・オムツ
生活用品・消毒液・ゴミ袋
プラググローブ・鍋・殺虫剤
蚊取線香・タオルケット・本
車椅子・電動ベッド・車両・他

支援物資の提供先

障害者施設6・老人施設12
グループホーム6・社協等4
避難所・仮設住宅3
合計32施設
延べ42カ所

仙台楽生園ユニットケア施設群の 職員の思い・つぶやき

【震災から現在に至るまで、施設職員が利用者様との関わりを通じて感じたこと】

☆ご利用者さまから「みんな無事で良かった」と言われて嬉しかった。

☆思うような食事が提供できない中での、ご利用者様から「皆なんとかか少しでも、食事を用意してくれているのは分かっているから、食べれる量じゃなくて気持ちが大事なんだよ」や「毎日、少しでも食べれていることが良いんだよ」と言葉をかけて頂いた。

☆いつもなら、ぐっすり休まれてる利用者さまが、中々眠れず寝ていて寝た時「私ばいゴメンね。みんなのことも見てやって欲しいけんども、もう少しだけ一緒にいてね」と言われた。いつもは私ばいから他の人のことをやってあげてという方なので、何とかしてあげたいと思ったし、もっともっと利用者様とゆっくりに関わりたいと思った。

※今回の震災を体験して、メディアを通じて各地の被災状況を目の当たりにし多くの被害に見舞われて失ったものは多い。しかし、同時に一人一人が復興に向けて行うこと・今後に備えて準備するものは何かなど多くを学んだ。この学びを、確実に未来へ繋いでいくために今自分達に出来ることを一つずつ行っていきたいと思います。

☆地震直後、ライフラインが止まり利用者様に我慢と不便をかけたが、食事や環境に不満を言わず、じっとその状況に耐えている利用者様の姿を見て、利用者の気持ちの強さを感じた。職員が「頑張ろう!!」と思えるきっかけになった。

☆震災後、職員も動揺していたが、普段と変わらない笑顔を見せてくれたり、いつも歌う歌を聞かせてくれたりして平常心をとり戻せた。

☆水や電気がある事がどんなにありがたい事が「当たり前」は「当たり前」じゃないと感じた。

☆自分(職員)だけでなく、自分の家族まで心配して頂き嬉しかった。



頑張ろう東北!!

おきの3施設

・老人福祉センター

・デイサービスセンター

・居宅介護支援センター

～ 太平洋まで約7kmと、まさに「目と鼻の先」に位置する
沖野3施設。「東日本大震災」後、私たちは地域の皆さん
から多大なる協力をいただき、復興の途を歩んでいます～

老人福祉センター



「大地震で、センターが
とても心配でした」

(老福センターの応援に
来て下さった阿部さん)

※震災直後、自らの身を守ることで精一杯といった中、
老人福祉センターをふだんからご利用いただいている
阿部さんが「お手伝いする事はありませんか？」と、
地震ですっかり様相が変わり果てた事務所内の片づけ

をお手伝いに駆けつけて下さったのです。予想だに
していなかっただけに、居合わせた職員みな驚きと
感謝で一杯。阿部さん、ありがとうございました！

※4月下旬の老人福祉センター再開以降も、
施設内・及び周囲の破損箇所の修繕に、
地域の方々からご協力を頂いています。
誠にありがとうございます。



地盤沈下した
玄関前を、地域の
皆さん・職員の
力を合わせ仮修繕！



デイサービスセンター

※デイサービスセンターでは震災翌日、利用者様の
安否と休業のお知らせを兼ねて、自転車でお宅を
一件一件訪問し、みなさんのご無事を早急に確認。
職員一同、胸をなでおろしました。
4月中旬、デイ再開のお知らせにあがり
ました際には、利用者の皆さまから喜びに
満ちたお言葉をちょうだいして、
私たちも胸が一杯になったのです。



(敬老会にて)

「さあ、皆さん
一緒に～♪」



その後、駐車場にできた沈下の整備もひと段落、
秋には、恒例となっております「敬老会」が、
利用者の皆さんの笑顔あふれる中、楽しく
元気に行われています。



駐車場の段差も
整備完了！

居宅介護支援センター



「地震の時は大丈夫でしたか？お困りのことがありましたら、ご遠慮なくどうぞ」

(沖野居宅・渡邊淳朗
ケアマネジャー)



※居宅介護支援センターでは震災後、六郷地域包括支援センターからの食糧・衣類などの支援物資を独り暮らしの利用者様のお宅へ、徒歩・自転車により配送。

しばらくぶりで皆さんと会ってお話させていただき、笑顔に触れたとたん、その笑顔の中にみなぎる力が宿っているのを感じて、徒歩や自転車による配送の疲労・苦勞が全て吹き飛んだのです。

これこそ人と人と心が「ふれあった」瞬間だと感じました。

利用者様の皆さん、これからもよろしくお願ひします！

地域・利用者の

みなさまと



※ 県内はもとより、日本各地に甚大な被害をもたらした「東日本大震災」。

沖野3施設においても、修繕・修復が進んでおりますのは前述した箇所を含め、施設の一部に過ぎず、ご利用頂いている皆様に快適な時間を提供できていない部分があります。

その一方、地域の方々との太い「絆」に支えられ、3施設の周囲は四季折々の色鮮やかな花壇と緑あふれる野菜畑にいつでも恵まれています。

「千里の道も一歩から」。私たちは、他のどこでもない、この沖野で震災から再び立ち上がり、地域の方々・利用者の皆さまとともに3施設が一体となって復興・そして未来へと歩いていくのです。



3施設を彩る、緑豊かな畑と華やかな花壇

葉山デイサービスセンター



センターに初めてのお泊り

2011年3月11日 14時26分 センターではいつものように集団でのリハビリ体操中に、東日本大震災が発生しました。長く激しい揺れに利用者の方々も大変怖い思いをいたしました。利用者の方も職員も怪我することなく全員無事だったのが何よりでした。

家族と同居している利用者さんは自宅までお送りし、一人暮らしや高層階にお住いの利用者の方は、センターに泊まって頂くことにしました。電気・水道は止まり、職員が持ってきた石油ストーブ1台で暖をとり、ホールにあるだけの布団を敷きつめ雑魚寝のようでしたが利用者さんに横になって頂きました。

強い余震が何回もありそのたび起きたりしてゆっくり休むことが出来ませんでした。『大丈夫だよ』と職員に声をかけられてとても安心できた。泊めてもらって助かった。職員と一緒に心強かったなど利用者さんの声が聞かれました。また、確認に連絡の取れないご家族がセンターまで来て下さいました。

翌日連絡の取れた方は家族のもとへお送りし、連絡の取れない利用者さんは、長生園の方に避難していただきました。

センターも水道管の破裂・給湯ボイラーの故障し復旧修理に一月余り休むことになり、利用者の皆さんには大変ご迷惑をおかけしました。利用再開当初は余震に敏感に反応していた利用者さんも、今現在は余震も少なくなり、またいつものような笑顔と笑い声のある葉山デイサービスセンターに戻ったようです。



故障した給湯ボイラー



こころがけて いた事

震災後数日で電気と水道は復旧したのですが、皆で節水節電を心がけました。日中は極力電気を使わないようにし、しばらくの間入浴は数日おきで時間も短縮して入ったり（共同風呂です）、洗濯・食器はためてから等々、日常の小さな事から「今自分達に出来る事はなんだろう」と、皆でコツコツと実行しました。

仙台つばさ荘

たくさんのご支援

ありがとうございました！



震災直後より、地域の方々、仙台市や関係機関、企業の方々、全国の母子生活支援施設の皆様から、たくさんの救援物資や励ましのお言葉をいただきました。

大きな余震が続き、周囲の環境も変わってしまった毎日の中で、そのことが利用者の方だけでなく、職員にとってもとても大きな心の支えとなりました。この場をお借りしてお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

おうえん ～思い～



北海道札幌市にある母子生活支援施設「もいわ荘」の子ども達から励ましのメッセージを頂き、とても喜んだつばさ荘の子ども達。すぐにお礼のメッセージを送りました。

つながり ～絆～

毎年夏に子ども会行事の夏合宿でお世話になっていた東松島市にある民宿の方々へ、子ども達手作りのメッセージボードを送らせて頂きました。復興で大変な中、とても温かく力強いお返事のお手紙を頂きました。また行くのを楽しみにしている子ども達です。



僕たち私たちの願い・決意

毎年夏の恒例行事“夕涼み会”。今年も8月に開催する事ができ、皆で楽しいひと時を過ごすことが出来ました。その数週間前、子ども会からの出し物を話し合っている時に、子ども達から「震災について話したい」という意見が出ました。当日はお客様や母親達の前で堂々と自分達の言葉で思いを発表してくれました。希望と絆にあふれた子ども達の思いをご紹介します。

「僕たちだってみんなを守りたい。早く復興して日本全部が元気になってほしい。皆が幸せになりますように。明るい世界が待ってますように。私たちもみんなの力になりたいから、出来る事からがんばります！！」



被災生活を振り返って

今年の3月に東北地方を襲った東日本大震災から半年以上が過ぎましたが、その爪跡は深く、沿岸部では未だに復興の兆しが見えない地域もあります。仙台むつみ荘



では地震発生当初、施設長を含めて9名の職員が対応にあたり、先ずは入所者の方々の安否確認や近隣住民の受け入れ等を行いました。それから入所者の方々と力を合わせて水汲みや薪拾い、情報の収集等に奔走し、ライフラインが復旧するまでの被災生活乗り越えました。誰もが不安でいっぱいでしたが、施設長の冷静な判断・指示及び職員の迅速な行動が、入所者の方々の不安を軽減したことは確かです。電気・水道が復旧してから（入所者の方々の）生活の基盤を集会室から各居室に徐々に戻していきましたが、ガスが復旧するまでの間は限られた食料を工夫して入



所者の方々と近隣住民の方々に定期的に配給していました。被災生活乗り越えて生まれた「絆」について次に掲載したいと思います。震災直後から仙台市をはじめ他事業所並びに多くの関係機関から様々な支援を頂きましたことに職員一同心より深謝申し上げます。

地域との「絆」が生まれた

近隣住民を代表して大竹氏、加藤氏に当時の状況や施設の印象について話を伺いました。

大竹氏

「状況が落ち着くまでの二十日間程度大変お世話になりました。私は福祉施設等の建設や防災関係の仕事もしていたので、施設に対して偏見等は持っていませんでしたが、町内会ではイメージが悪い、雰囲気良くないとのことでした。施設を移転するよう要求する話も出ていたことがありました。しかし、昨年から施設長が積極的に町内会に参加するようになってから、『空気が変わりました』。震災時には独居高齢者の方の安否確認や食料支援の相談に快く応じてくださったので、施設と地域との絆が生まれたのだと実感しています。」

加藤氏

「一人暮らしだったので、施設内で周りに大勢の人がいるという環境が不安を和らげてくれま

した。出掛ける度に声を掛けていただいたり、昼食用におにぎりをいただいたり、とても心が温まりました。子ども達が職員と一緒に水汲みや薪拾いを行う姿を見て、私も頑張ろうと励まされました。息子達からも『（目の前に）施設があつて良かったね』と言われました。今後何かあったらお世話になります（笑）。」

地域の中にある福祉施設として、地域との共存は欠かせません。今回の震災で生まれた「絆」が長く続くような施設である為に、施設長はじめ職員一同頑張つて参ります。



こぼれ話

前項で紹介した大竹氏に畑の指導を依頼し、今年はサツマイモを堆肥袋で育ててみました。「袋で育つの？」と心配する方もいましたが、大竹氏のアドバイスのおかげで無事に収穫を迎えました。まさに地域との「絆」のように

大きく育ちました。震災後に植えた苗は地域住民や職員の思いを詰めて、大きく育ったのではないのでしょうか。芋を発

見する度に子ども達から沸き上がる歓声が水の森に響き渡っていました。



仙台保育園

3. 11震災 ～あの日、あの時～



翌日に卒園式を控え、あの時間はお昼寝の真っ最中・・・ 緊急地震速報装置『なまずくん』が数秒前に地震の警告を発したと同時に、職員は即座にそれぞれの持ち場に猛ダッシュ！子ども達はまだ布団の中にいたり、揺れで起きだしたりで何が何だか分からない様子もありましたが職員に身を守られながら揺れが治まるのを待ちました。0歳児から年長組まで誰一人として泣いたり騒いだりの姿はまったく無く、これには本当に驚き！すごい！の一言です。

高野園長先生も「訓練どおりだねえ～！」とびっくり・・・（でも、言った記憶はないらしい・・・）

その後、建物の安全が確認されたので、1階の保育室に全員避難し、おやつを食べながらお迎えを待ちました。園長先生が起こしてくれた発電機での明かりが心のよりどころとなった夜7時前には全児童が無事降園する事ができた保育園・・・。外に出れば間違いなくあの雪の中で子ども達は寒い思いと恐怖を覚えたはず。

揺れが来る5秒前の警告はとても貴重で有り難いものでした・・・でも、本当はなまずくんが静かでいられるよう、作動する事のない様心から願っています。

『なまずくん』って!?

仙台保育園には各部屋に緊急地震速報装置が設置されており、地震発生を察知すると同時に予想震度、数秒前からのカウントダウンが音声で流れてくる優れモノ！

・・・でも、「人間なまずくん」

も事務室にいるらしい・・・

“なんか揺れてますよね!?”

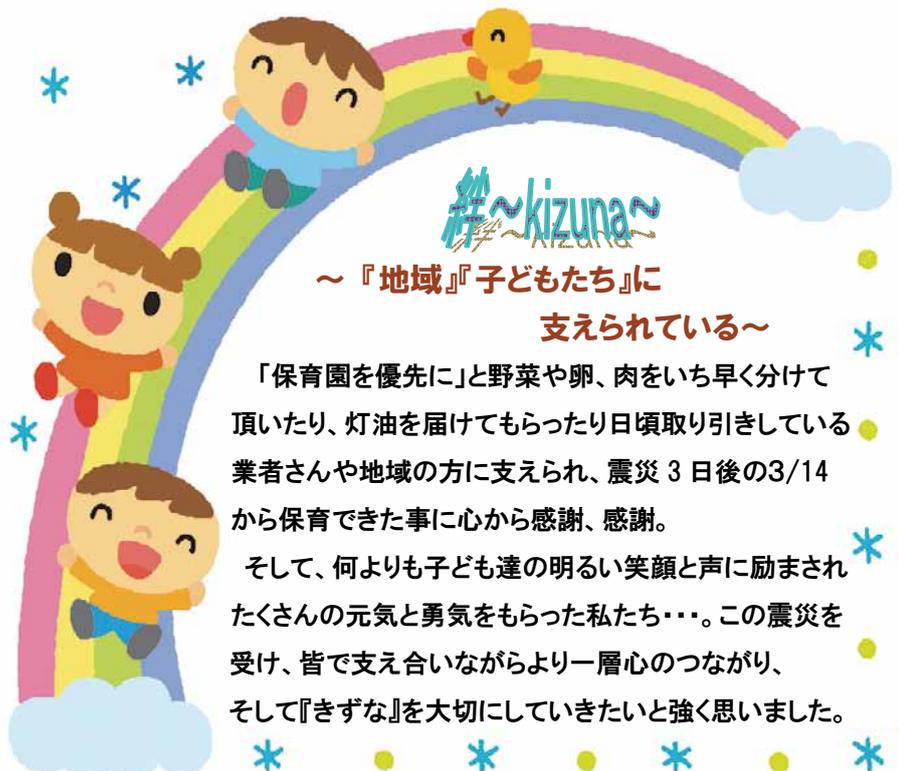
なまずくんよりも素早く察知し、的中率もスゴイらしい・・・誰かって? それは・・・

しゅ・に・ん♪♪♪

な
ま
ず
く
ん
→



発電機や非常用バッテリーの「パワモリくん」ハロゲンライト・・・使い方も避難訓練に取り入れて非常時に備えています。



ありがとう



～『地域』『子どもたち』に
支えられている～

「保育園を優先に」と野菜や卵、肉をいち早く分けて頂いたり、灯油を届けてもらったり日頃取り引きしている業者さんや地域の方に支えられ、震災3日後の3/14から保育できた事に心から感謝、感謝。

そして、何よりも子ども達の明るい笑顔と声に励まされたくさんの元気と勇気もらった私たち・・・。この震災を受け、皆で支え合いながらより一層心のつながり、そして『きずな』を大切にしていきたいと強く思いました。

← 在園児だったお子さんが引越先の兵庫県芦屋市の西山幼稚園に入園してからのある日・・・。

ご縁を大切に幼稚園のPTAの皆さんより《少しでも多くの笑顔をお届けしよう》と石油ストーブ3台が贈られてきました。添えられてきた手紙に思わず目頭が熱くなり感謝の気持ちで一杯です・・・。

柏木保育園

震災から半年以上が経ちましたが、今では何事もなかったかのような毎日を過ごしています。子ども達の元気な笑い声・園庭でいろいろな遊びを楽しむ姿！！嬉しいですね！！ライフラインが整い、現在のこの恵まれた環境に、改めて感謝！！です。

地震！！（・_・!）

3/11(金)子ども達は、お昼寝中でした。一時はテントを張り、園庭に避難しました。あの大きな揺れのあとも余震が続き、不安でいっぱいの中お迎えを待つ子ども達……わが子の無事が確認できて涙する保護者の方もいましたが、保護者の皆さんの無事にホッとさせられました。ライフラインが復旧しない中ではありましたが、週明けから保育を行いました。園庭に釜戸を作り、沢山のお湯をわかして子ども達の体洗いをしたり、非常食や提供して頂いた食材で、元気の源のごはんや温かい味噌汁やおかずを提供することもできました。ライフラインの復旧では、嬉しくて思わずバンザ〜イ！！そして、何よりも子ども達の笑顔や無邪気に遊ぶ姿から、沢山の元気や勇気をもらえたと思います。

夏まつり

同窓会開かる

今年は震災があり、小学校6年生までの卒園児とその保護者さん向けに、その後元気にしているのだろうか？！……安否確認を兼ねて、夏まつりの招待状を送りました。当日の午前中、保育園のホールには親子で100人近い懐かしい顔ぶれが集まりました。

当時のスライドを見たり、集まった皆で近況や当時の思い出話や、当日参加できなかった方の近況など色々な話で盛り上がり、楽しく賑やかなひとときを過ごすことができました。新たな絆を大切にしていきたいと思います。尚、午後からは例年通り、在園児の夏まつりを行い、また一段と盛り上がりました。



海を越えて

現在アメリカで生活をしている卒園児の方から、子ども達にと、おもちゃが届きました。突然のプレゼントに大喜びの子ども達でした。その他関係機関からも、絵本や紙芝居や励ましのことばを頂き、感謝の気持ちでいっぱいです。



夏まつり、運動会が天気にも恵まれ、予定通り行えたことが、特に今年は喜ばしい気持ちでいっぱいでした。余震は時々ありますが、子ども達の安全を守り、子ども達の笑顔にまた沢山の元気をもらいながら、毎日楽しく過ごしていきたいです。また、保護者の方や地域、関係機関と支えあい、よりよいつながりを大切に、あの日を忘れずにいたいと思います。

富沢わかば保育園のきずな

震災から半年以上が経ち…

私たちの生活は以前とほぼ同じようになりました。あの時は生死の境という位、必死に生活しましたね。電気・ガス・水道・食料…すべてが揃っていること、とても恵まれた環境にいたんだなぁと実感しました。

そんな生活の真ただ中に、私達は人と人とのつながり、温かさを感じました。

先生、これ買って来たからみんなで食べて！

…発生直後、園児のお父さんから、パンやお菓子、飲み物の差し入れをいただきました。簡易テントを作ってくれたお父さんもいました。

手に入ったので、給食で使ってください。

…食料が品薄で寂しい給食が続く中、買ってきてくれたり、実家から届いたからおすそ分けと、野菜や卵などを持ってきてくれました。

このようなたくさんの保護者のご支援に感謝と感激で涙の日々でした。ありがとうございました。これからも保護者の方々に支えられて、私達は頑張ります♪



毛布いっぱい集めて持って来たから！！

…卒園児のお母さんは、小学校に息子を迎えに行く前に毛布を持って寄ってくれました。不安な状況と感動のあまり、抱き合っただけ涙が出ました。

ホッと一息&涙★

●地震直後、園庭に避難した時のたんぽぽ組の子ども達…

「先生、〇〇君に足踏まれたぁ(>_<)」

「僕も痛かったぁ…」と、いつも通りの会話。緊張感と不安の中で、ホッとしたひとときでした。

●卒園式の前日の震災。子ども達はインフルエンザになりながらも、それまで気持ちも高く歌も完璧でした。歌は、いきものがかりの“ありがとう”。翌週、少人数の保育中、保育士がピアノの練習をしていると、卒園児Aちゃんがピアノに合わせて独唱…その姿にいろいろな思いがこみあげ、職員達は涙したのでした。こうやって無事でいること、保育できることに、“ありがとう”です。延期になった卒園式も大号泣でした(T_T)

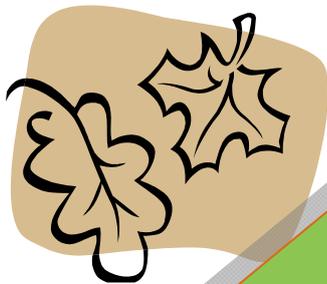


あの日…旧さくら組では、お昼寝前に星空・星座の絵本を見ました。「これが北極星って言うんだよ☆」と子ども達と一緒に勉強。「あとはみんなが、中学生になったら勉強するからね！(笑)」

まさか実物のあんなにきれいな星空を見ることになるなんて思ってもいませんでした。自宅に着き停電の中、「あれが北極星かぁ…(T_T)」と、昼間の子ども達との時間を思いながら、近くの避難所へ向かう担任でした。あの星空は忘れられません。



当法人の職員の互助会である「春秋会」を代表して、菅田事務局長が南三陸町歌津地区と石巻市北上町の避難所3箇所に殺虫剤、蚊取り線香、ハエタタキ、ミネラルウォーター等を届けさせて頂き、現地の方からは大変喜ばれました。



がんばろう！東北！

がんばろう！宮城！

希望の
木



編集後記

3月11日の大震災から半年が経過した今、改めてその時の状況を見つめ直し、被災された方々が多い中で私たちはそれぞれの職場で何を思い行ったのか。そして非常時において大切なものは何だったのか。今後この思いをどの様に生かしていけば良いのかを「絆、未来、夢」の言葉を基に各事業所より綴って頂き、表紙はまもなく完成する「あなたを想う心」のパンフレットを用いました。こちらませひご覧ください。

広報委員一同